

## 下山 静香 (Shizuka Shimoyama) 氏 略歴

桐朋学園大学卒業。同室内楽研究科修了。99 年、文化庁派遣芸術家在外研修員としてマドリードへ。故 R.M.クチャルスキ、M.サバレタのもとで研鑽。その後バルセロナのマーシャル音楽院にて、C.ガリガ、故 C・ブラーボ(モンポウ夫人)、故 A.デ・ラローチャのもとでスペイン音楽研究を深める。スペイン各地、清里スペイン音楽祭ほかに招かれリサイタルを行い、「スペインの心を持つピアニスト」と賞される。

03年、スペインの室内楽を紹介する主宰シリーズを開始。世界的アコーディオン奏者S.フッソングを迎えた第1回は「多彩な音色やアピール力の高い効果として弾きこなしした知的な名手2人の好演」と評される。第2回はアンサンブル金沢首席チェロ奏者のL.カンタをゲストに、ガスパール・カサドの世界をテーマとした。第3回はフェデリコ・モンポウの室内楽と歌曲の世界を紹介、第4回は、常設の弦楽四重奏団として活躍するクアルテット・エクセルシオを迎え、ファリャとトゥリーナの室内楽作品を特集した。

2015 年、朝日新聞社主催「浜離宮ピアノ・セレクション — 気鋭の今を聴く」に選ばれ、スペインとラテンアメリカのプログラムでリサイタルを行う。主宰シリーズも複数展開、＜ラテンアメリカに魅せられて＞では“知られざるクラシックの宝庫”ラテンアメリカのみに焦点をあて、新たな地平を広げた。＜おんがく×ブンガク＞では毎回テーマ作家を設定し、自由な発想で作品世界へのアプローチを試みている。

インスティトゥト・セルバンテス東京主催「バルセロナ・エクスペリエンス」(2021 年)に出演、インスティトゥト・セルバンテス東京／日本・カタルーニャ友好親善協会共催「サン・ジョルディの日」イベント(2023 年)では「モンポウ生誕 130 年」をテーマにコンサート。飛騨高山音楽祭、ふくしま国際音楽祭、北とぴあ国際音楽祭などに出演。国外では、イタリア、キューバ、スペイン、ノルウェー、ルーマニアに招かれ演奏。

CDはソロで 14 枚(『レコード芸術』特選盤 5 枚・準特選盤 5 枚、『音楽現代』注目盤、タワーレコード月間推薦盤、読売新聞推薦盤ほか)、「デュオ・アニミス」として 2 枚をリリース。

これまでに NHK-BS プレミアム「クラシック倶楽部」、NHK-BS「ぴあのピアノ」、NHK-E テレ「ららら♪クラシック」、TBS-BS「本と出会う」、NHK-FM、各地コミュニティ FM、フランス国営ラジオなどに出演。

現在、ソロ・室内楽で演奏活動を展開しながら、執筆・翻訳・講演・朗読・楽譜校訂など多方面で活動。執筆分野では、単著に『まるごと 1 冊 スペイン音楽の本』(2024 年度ミュージックペンクラブ音楽賞ノミネート)『裸足のピアニスト』、訳書に『サンティアゴ巡礼の歴史』『モーツァルトとコーヒータイム』があるほか、事典の編著、共著、翻訳、書評、エッセイ、雑誌や演奏会プログラムへの寄稿などを手がける。2024 年 2 月より、『東京新聞』で「おんがく×ブンガク」連載中。

桐朋学園大学音楽学部、東京大学教養学部 非常勤講師。日本スペインピアノ音楽学会会長。

日本スペイン経済友好会会員 / 日本・カタルーニャ友好親善協会会員 / 日本ベネズエラ協会会員 / 在研会会員 / 桐生ふるさと大使。